

第8回 市立病院のあり方検討会議

日 時 : 平成28年11月1日(火) 15:00~
場 所 : 総合保健福祉センター(アシスト21) 2階 講堂

次 第

- 1 第7回市立病院のあり方検討会議の開催結果について 資料1
- 2 平成27年度病院事業決算の状況等について 資料2
- 3 本市の政策医療の提供体制について 資料3
- 4 改革プラン(たたき台)について 資料4
- 5 意見交換

第7回「市立病院のあり方検討会議」の開催結果について

1 開催概要

- (1) 開催日時 平成28年8月5日（金）14：00～16：00
- (2) 開催場所 北九州国際展示場 AIMビル3階 311会議室
- (3) 内 容 改革プラン（たたき台）について

2 改革プラン（たたき台）に対する意見趣旨

(1) 「2(1)②市立病院の役割」関連（P8～9）

○花岡構成員（福岡県看護協会・会長）

- ・「不採算医療」という表現については、こうした医療をしながら黒字経営の民間病院もあるので違和感を覚える。

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

- ・このたたき台では、計画期間中の5年間は今のままで何も変わらないようになっている。医療センターと八幡病院の役割が明確になる書きぶりにすべき。
- ・高度な医療を提供する病院が2つあるのは理解できるが、同じ機能の病院を持ち続けるのであれば改革にならないと思う。きちんと機能を整理して欲しい。
- ・看護専門学校も変わらないといけない。地域包括ケアや障害者医療に役立つ人材を育成すべき。現在の3年制に独自教育を1年プラスすることを提案したが、今回の改革は市にとってチャンスだと思うので、しっかり活かして欲しい。
- ・病院現場の改革のためには独法化すべきだと思うが、10～20年後に病院がどうあるべきか夢をしっかり描いて欲しい。
- ・市立病院だけでなく、民間病院も含めて市民の命を守っていくという視点が重要。作るのは大変だろうが、各病院の機能を地図に示した北九州全体の医療マップのようなものがないか。

○佐多構成員（産業医科大学病院・病院長）

- ・国のガイドラインで示された4つの項目のうち、見直すのは経営形態だけで、市立病院の役割は、医療センターも八幡病院も現状のままで全く変わっていない。前回の会議で結核や感染症、周産期医療は八幡病院でやってはどうかと提案をしたが、これでは改革とは言えない。もっと大胆な方向性を記載すべき。

- ・独法化はあくまでも経営の安定化と適切な医療を提供するための手段であり、独法化したからうまくいくわけではないと思う。検討会議で出た大胆な意見を改革プランに書いた方が、独法化後の人たちも、やりやすくなるのではないか。

○下河邊構成員（北九州市医師会・会長）

- ・市立病院のあり方については、これまで何度も調査会等で議論してきたが実行されずに終わっている。改革を進めるのは今しかなく、こうした議論は今回で最後にした。5年間だけでなく、将来を見据えたプランにしなければ、市民の税金が無駄になっていくのではないかと危惧している。
- ・8月末に地域医療構想に関する会議を北九州で開催する。民間病院や公的病院の医師も集まるので、医療マップの話が出たが、市全体での医療のあり方について議論してみたいと考えている。効率の良い病診連携・病病連携が出来ればと思う。
- ・熊本の震災を経験し、救急医療と災害医療は同一のものではないと実感している。八幡病院の災害拠点機能を強化し、他都市にはない災害時のコントロールセンターをつくっていったらと思っている。
- ・また、11月に、医師会と獣医師会で感染症をメインとした世界大会を北九州市で開催する。今後、高齢化が進み、重症感染症が増えてくるので、その対応を医療センターなどで一括してやってもらえればありがたい。

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

- ・このあり方検討会議は、病院現場の課題解決のため、経営形態のあり方から議論が始まったが、国のガイドラインに沿って市が改革プランをつくると、どうしてもこうした書きぶりになることは仕方がないと思う。ただ、各構成員の指摘は、改革のスタートが感じられる内容や位置づけにして欲しいという思いだと理解している。
- ・改革プランには、これまでと変わるという目線が必要だが、そういう意味では、経営形態の見直しは非常に象徴的なものだと思う。書ける範囲が限定されていて非常に難しいと思うが、改革の内容が見えるような表現方法を工夫して欲しい。
- ・市立病院のあり方について、民間医療機関との役割分担など考えた場合、現段階ではそこまでの議論に至っていないことは大きな課題だと思う。全体像が見えない中、もっと別の情報がなければ最適な答えを出すのは難しいだろう。
- ・地域医療構想を踏まえた役割の明確化については、市立病院のあり方の議論だけでは限界があると思う。方向性としては機能分化などがあると思うが、今後策定される地域医療構想を想定した記載ができないか検討して欲しい。

○豊島医療センター院長

- ・今回の改革プランは、国のガイドラインに沿って経営面が中心になっているが、これまでの議論を聞き、少し不足している部分があると感じている。市立病院の経営は大事だが、北九州全体の医療の仕組みをどう組み立てるのか、その中でどのように市立病院を活用するかという考え方もできる。

- ・市立病院の役割については、2病院体制ならば、成人病センターと成育医療センターに機能分担すべきと考えていたが、この会議に参加する中で、小児救急や成育医療に全ての診療科が必要なのであれば、むしろ1つの病院にしたほうが、市立病院の役割が明確になるのではないかと感じている。
- ・世の中の動きを見ると、市立病院の役割は、災害と感染症への対応が基本だと思う。その次が小児医療と周産期医療だが、これは医療圏全体での配置を計画的に考える必要がある。ただ、それだけでは病院が成り立たないので、これらに加えてその病院が得意とする高度医療あるいは先進的分野を担うというのが本来の市立病院のあり方だと思う。

○市川八幡病院院長

- ・八幡病院は小児救急をメインに救命救急センターも動いており、そうした機能を果たすためには関係診療科が必要。スリム化や機能分化はしづらいのが現実。将来的には1つの病院にするのが理想だと思うが、相当に大変なことだと思う。
- ・例えば、周産期医療を八幡病院に移して市立病院として特徴づけることも考えられるが、そうなると、周産期医療が八幡西区に集中し、市の東部が手薄になってしまうという問題も生じる。
- ・市立病院を一本化するのは非常に困難だと思うが、機能分担してテコ入れすることはいいのではないかと思う。

(2) 「3 (2) 目標達成に向けた具体的な取組み」 関連 (P 11 ~ 12)

○花岡構成員 (福岡県看護協会・会長)

- ・取組み内容については、大きな方向性は示されているが、目標達成のために具体的にどのような行動をするのかが見えるような書き方にしたいと思う。

○佐多構成員 (産業医科大学病院・病院長)

- ・「柔軟なベッドコントロールにより病床利用率を向上させる」と書かれているが、病床利用率を向上させるには入院患者を増加させることが重要であり、ベッドコントロールはサブ的な取組みだと思う。

○権頭構成員 (もやい聖友会・理事長)

- ・独法化後に、時代の流れに合わせて迅速・円滑に動いていけるよう、これまでの議論や意見を検証する必要があるのではないか。

○小野構成員 (北九州市薬剤師会・会長)

- ・平成30年度は診療報酬と介護報酬が同時に改定となるが、消費税の増税延期によって財源がない中で厳しい改訂が予想される。非常に厳しい経営環境での独法化になると思うので、改革プランで院長を縛ったり、医師の確保が出来ないという事態にならないように配慮して欲しい。いくら議論しても人材がいないと何もならない。

○平田構成員（戸畑区親子ふれあいルーム・代表）

- ・より良い病院にするためには、職員が働きやすい環境づくりが大切。市立病院がモデルとなるよう、働きながら子育てができる環境づくりに取組んで欲しい。

○原田構成員（乳がん患者会あすかの会・代表）

- ・医療センターのがん相談支援センターは、入りにくい雰囲気や相談しづらいなどの意見が患者から寄せられているので改善をお願いしたい。一方、緩和ケアの取組みは患者さんの評価も高いので、もっとアピールして欲しい。

3 第7回会議のまとめ

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

- 今日は「改革プラン・たたき台」に対する意見交換ということで、様々な意見が出された。事務局は本日の意見を受け止め、改革プランを作成して欲しい。